

# 街角ロードショー

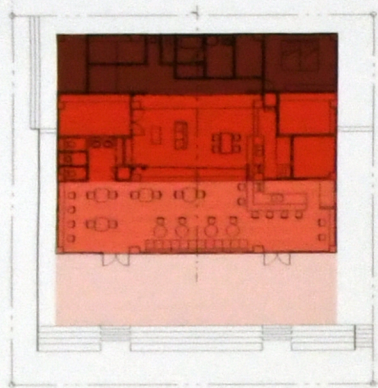
映画を見た後に、この感動をほかの人と共有できたらと思うことがある。映画館では、映画で私たちに感動を与えてくれるが、映画を見ながらそれを周りと共有することはできない。

カフェでは飲食をしながら、会話をしてお互いの趣味などを共有することができるため、映画館で欠けている部分を補えると考えた。

この両者を結んだ建築を提案することで、下記のような「人と人との関係を結ぶ」ことが実現できる。

また、年代によって好む映画の時代が異なるかもしれない。それらを様々な年代の人たちで共有することができれば「時代を結ぶ」ことも可能となる。

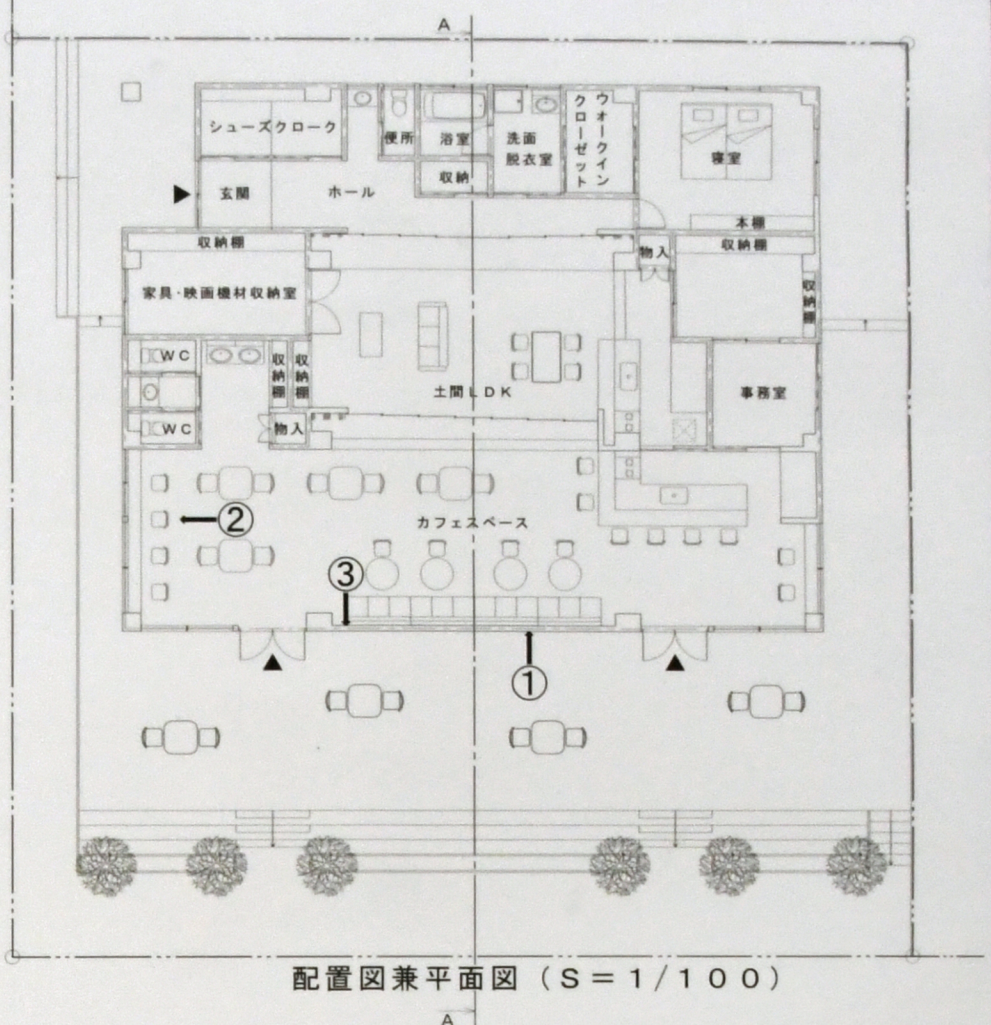
現代の社会は、人と人が関わる機会が少ないと思う。よって、下記のような形で人と人との関わりを「結ぶ」建築を提案する。



プライベート

色の濃い部分をプライベート、淡い部分をパブリックとして完全プライベートな部分、開口部の開閉によってプライベートとパブリックを併用できる部分、完全パブリックな部分をつくり出した。これにより、下記に記したような用途に合わせてプライベートとパブリックを自由に操作することが可能になった。

パブリック



配置図兼平面図 (S=1/100)

## ◎ 地域を結ぶ (①スクリーン)

映画館は多くが屋内にあり、チケットを買い、映画を見るため、当然購入した人しか見ることができない。しかし、この建築ではカフェスペースの外壁をスクリーンに見立て、そこに映像を写すことにより、通りがかった人が気軽に利用できそこで感動を共有することで地域の人たちを「結ぶ」ことができる。



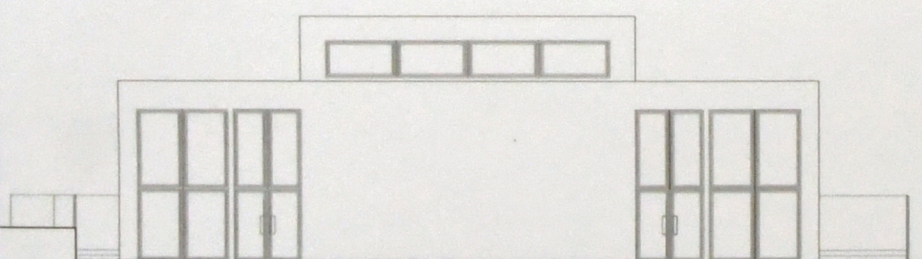
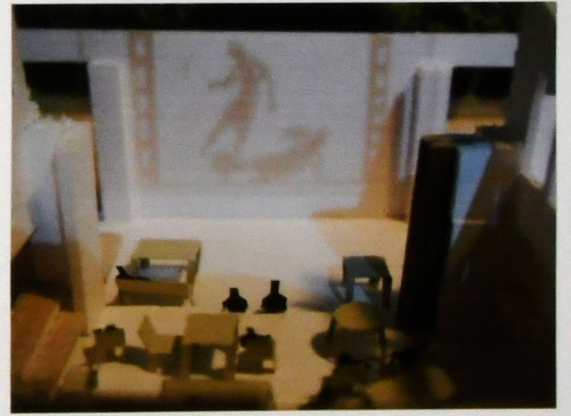
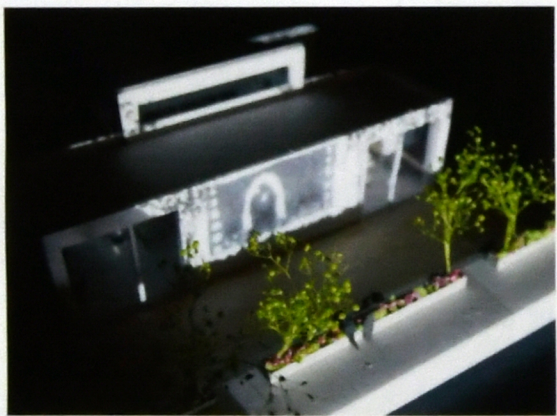
## ◎ 趣味を結ぶ (②スクリーン)

カフェスペースの西側をフリースペースとし利用者が好きな時間に好きな映画を自由に見られるようにした。映画を見るときは天井からスクリーンを下ろし、映画を見た人たちが集まって映画を楽しんでもらう。利用者それぞれが互いの好みを知ることもできるし、好みが同じ人たちが集まって共有することもできるなど映画を通じて一人一人の持っている共通点を「結ぶ」ことができる。

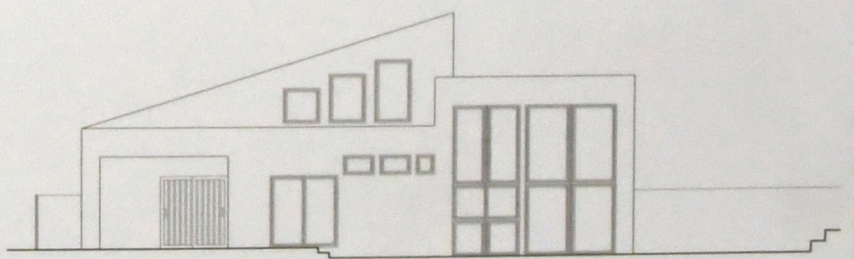


## ◎ 感動を結ぶ (③スクリーン)

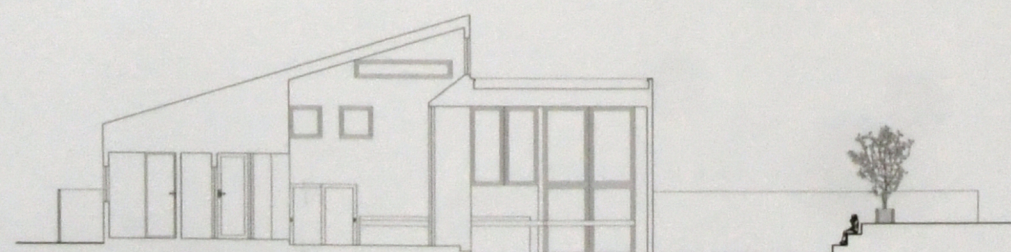
雨の日やスポーツ観戦などの特別な日は土間LDKとカフェスペースの間を開放させることによって、広い空間をつくる。そして、雨側の壁をスクリーンに見立て、そこに映像を映し出す。ドリンクなどを提供しながら映像を楽しむことができ、利用者同士の距離が縮まり、その空間にいる人たちを「結ぶ」ことができる。



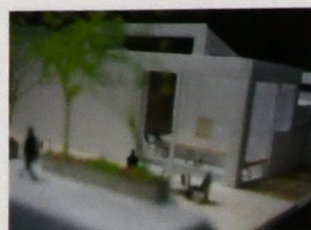
南側立面図 (S=1/100)



西側立面図 (S=1/100)



A-A断面図 (S=1/100)



# 立石仲見世商店街 妄想計画

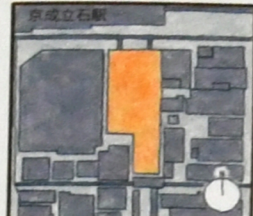
佳作

ここに、「商店街」と「地区センター」と「人」をむすびつける3階建ての複合施設を提案する。計画地は、東京都葛飾区立石のこの土地を選んだかという、近くにある京成立石駅の再開発の影響で全て取り壊されてしまうから、地元の身近な施設がなくなくコンペを通して、私だったらこのような場所にする、という意思を示していく。

人と人をむすびつけている施設として、「地区センター」が思い浮かんだ。そこで地域の地区センターへ実際にいきインタビューをし、そこで得たことと自身の提案をむすびつけながら設計をしていった。

1Fはお店や図書館、映画館で多くの人で賑わう「まじわりのば」、2Fは会議室や休憩室、自習室を設置し地区センター要素を多く取り入れた「おはなしのば」、3Fはアメリカの「High Line」を意識し、自然が豊かな屋上庭園がある「しばふのば」をそれぞれテーマに掲げた。たくさんの人に利用される公共施設になることを願う。

No.1 計画地一帯東京都葛飾区立石 No.2 思い出の場所「立石仲見世商店街」と再開発による取り壊し No.3 地区センターの方にインタビュー No.4 商店街と地区センターの融合 暮らしと時間を「むすぶ」新たな暮らしの場



計画地は、私の地元東京都葛飾区立石の仲見世商店街にする。近くに「京成立石駅」があるので、地元の人はもちろん、観光客の方もこの施設を利用しやすい、人と人を結びつける、理想的な立地。



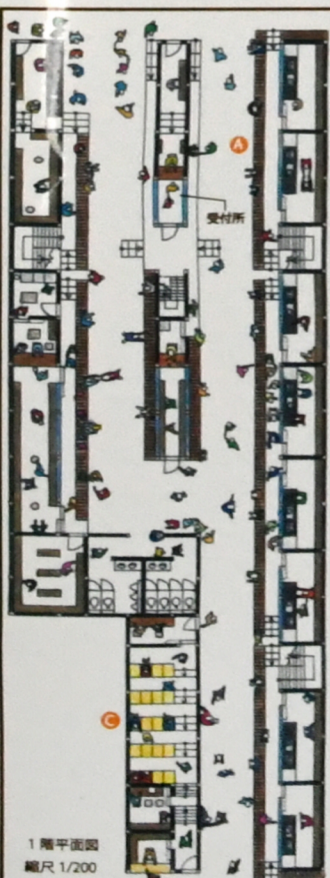
私にとってこの商店街は思い出の場所だ。開放するときはずっと通りを歩いて通る影に気づいたり、お正月に開催される「手作り風コンテスト」にはりきり参加している。しかし現在、「京成立石駅」は再開発でその周辺が取り壊されていく。最終的にはこの「立石仲見世商店街」もなくなってしまふ。立石のシンボルともいえる建物がなくなってしまうのは非常に残念だ。もちろんただの一生懸命でどうこう言う権利はないが、せめて最後の記憶として、私だったらこのような場所にする、という意見を建築の提案を通して示そうと思う。



人と人とを結びつける瞬間を考えるにあたり、フィールドワークとして地域の地区センターに伺った。センター長の方によりますと、この施設では会議室や休憩室を貸す他に、台所は調理場になるという新しい使い方がされている。



テーマ「むすぶ」意識し、そもそも地区センターという施設自体に人と人を結びつける力を求めている。だからなんと、そこでお客様が地域や食材を買い、焼く、煮は会社で働いた大人たちが家庭でできるようなお料理やお菓子を作っている。私はこれに、地域の味と作り手による可能性を感じた。そして、休憩室や会議室がある地区センターは、地元産のコミュニティ空間となっている。私は今回、この2つの提案を結び合わせた。



## 1 F

### まじわりのば

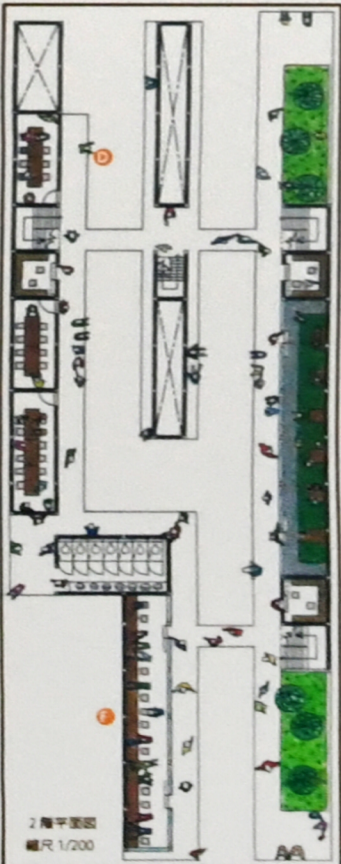
1Fのコンセプトは、商店街の要素の人と人との賑わいを大切に「まじわりのば」。

小さいお店を一直線に配置することで、商店街っぽさを演出した。お店舗内で内装や設備は自由にカスタマイズでき、個性溢れる空間にしよう。

買った食べ物や飲み物を味わうための特定の客席は用意せず、利用者が自由に座れる「壁側」を、建物の至る所に設置した。そこでは、単に飲み食いするだけの用途に限らず、おしゃべりや読書、休憩目的でも使用することができる。

また、商店街の一角に「図書館」を計画する。本の貸し借りという、今までの商店街になかった要素を含ませることで、より様々な人々に利用してもらうのが目的である。

そして「小映画館」もまた、今までにない機能として配置する。近くにポップコーン屋さんがあれば、売れるかもしれない。



## 2 F

### おはなしのば

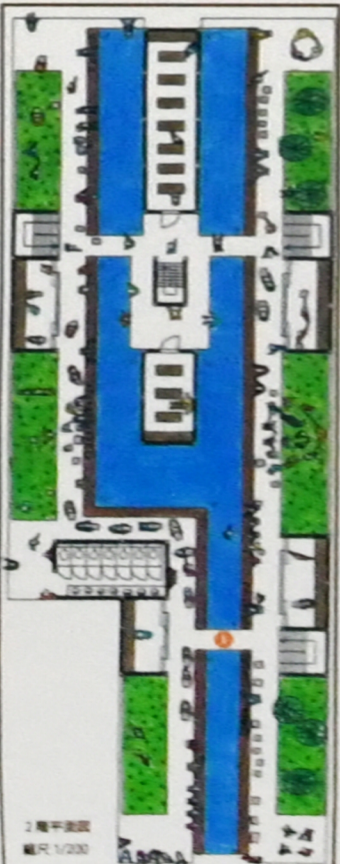
2Fのコンセプトは、地区センターの要素を大きく反映する、「おはなしのば」とした。

小会議室を2部屋、大会議室1部屋設置した。1Fの受付所で鍵をもらい、時間制限で利用できる。地元の人が集まった話し合いはもちろん、ちょっとしたイベントを開催したり、学生が集まって勉強会を開くために借りることも可能である。

昼を飲いた休憩室を設置する。1Fで買った食べ物や飲み物をゆっくり味わいたい人が利用するかもしれない。しかし基本、自由に使える。

そして、学生のために「自習室」を計画した。敷地が駅の近くであるので、学校から帰ってきた、電車通いの高校生も気軽に立ち寄れる。勉強に疲れたら、1Fで買ったものを口にしてからまたもうひと頑張りしてみるのもいいかもしれない。

2Fは会議室や自習室があるため静かな空間になる予定。



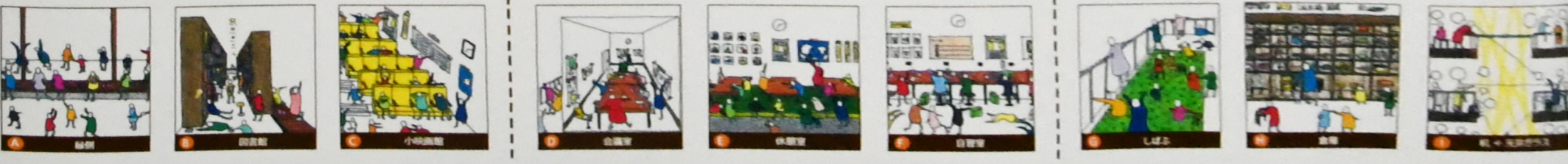
## 3 F

### しばふのば

3Fのコンセプトは、アメリカの「High Line」を意識した屋上庭園がある「しばふのば」としたが、それは敷地が広い。高層ビルは0m階層に建ててあり、川が流れるとたまたま洪水が起きてしまう。その避難場所として多くの人が避難できるように、「しばふ」という形でスペースをとってある。

そして、涼風や夏草の匂いを感じる道具がしまっている。そのうち庭園近くにある2つの倉庫には、涼風用の椅子をしまっておき、暑気から解放しておく。日常的に避難場所になることで、いざという時も慌てず行動できるのではないかと。

そして3Fには、天気が晴れた時を考慮して、建物と建物の間にガラスをはめると、こうすることで、1Fで買ったものをしてる人は風にさらけ出す。また、晴れた日には、太陽の光を建物全体に取り込むことができる。



異文化交流から始まる、人と人をむすぶ建築

はじめに

近年、目まぐるしい程にグローバル化が進行し、社会、そして私たち一人一人に求められる能力も変化してきている。

しかし、現在の日本では、海外の人々と直接触れ合う機会や、異文化に触れあう機会が少ない。また、日本人は、内向き志向、消極的な人が多いと言われている。

また、日本では、少子高齢化の進行により、多方面での社会問題が発生している。例えば、過疎化や地域の活気の衰えなどである。

そこで、私達は現在増加傾向にある「空き家」を活用し、日本国内で海外の文化に触れ、その文化を通して他文化の人々と関わることを出来る、「異文化交流から始まる、人と人をむすぶ建築」をテーマに、グローバル化に対応した新たな建築の在り方を提案したいと考えた。

第一章 文化とコミュニケーション

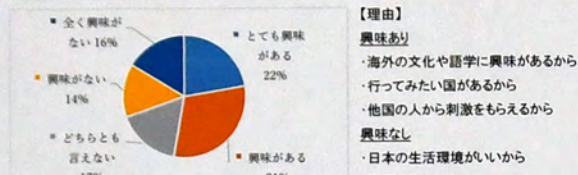
第一節 現状

近年、世界規模のグローバル化が進み、国境を越えた交流が盛んになっている。「文化」という言葉を聞くと、生活文化、食文化、伝統文化、異国文化等、さまざまな「文化」が連想される。

まず、日本財団によって行われている「18歳意識」という調査についてである。「18歳意識」とは、選挙権年齢が20歳から18歳に引き下げられたことから、次代を担う18歳が政治や社会、仕事、家族、友人、恋愛などをどのように考え、意識しているか、幅広く知ることによって新しい社会作りで役立てることを狙いとし、18歳の若者が何を考え、何を思っているのかを継続して調べる意識調査である。

①海外で生活することへの興味

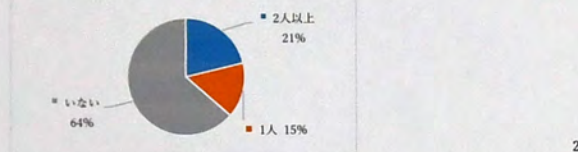
最初に、「あなたは親の転勤や引っ越し以外で、自分で選択できるとしたら今後海外で生活することに興味はありますか。」という質問についてだ。結果は下図である。



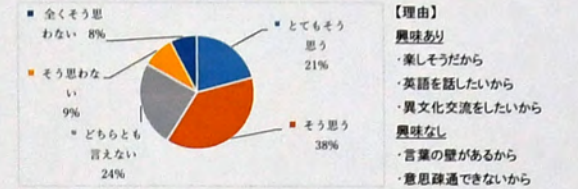
以上から、海外に興味を持っている人も興味を持っていない人も、他国の文化と関わりコミュニケーションをよめる機会が与えられることで、グローバルなつながりを持つことができると考えられる。

②海外の友人について

次に、「あなたは外国人の友人はいますか。」という質問だ。結果は下図である。



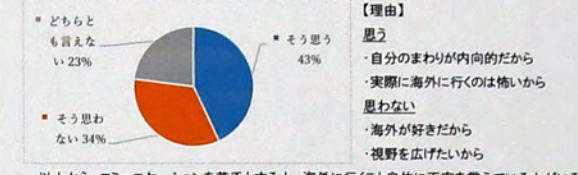
また、先ほどの質問に対して、「いない」と答えた人の中でも、「外国人の友人を作りたいか」という質問に対して、肯定的に答えている人は多数である。



以上から、外国人とコミュニケーションをとりたいと考えている人が多い一方で、言葉の壁を理由に、友人を作りたいと思わない人もいることがわかる。

③最近の日本の若者の内向き志向について

最後に、「最近の日本の若者について「内向き志向で海外留学などを好まない」という見方があることについてどう思うか」という質問についてだ。結果は下図である。



以上から、コミュニケーションを苦手とする人、海外に行くこと自体に不安を覚えている人が多いとわかる。その一方で、海外へ実際に行くことへの前向きなイメージから、留学等に行きたいと考えている人もいる。

①～③より、日本人は外国人との交流に対して積極的な姿勢であるといえる。しかし、それに関わらず、外国人は日本に在住することに不安を抱いている人が多い。例えば、日本語での意思疎通、居住場所の確保などだ。

そこで、私たちは、日本国内で他国の文化に触れ、他国の人々と、食文化等の様々な文化を通して、コミュニケーションをとれる空間をつくらねばならないのではないかと考えた。

第二章 空き家の活用

第一節. 現状

今日、空き家の軒数は年々増加しており、今や日本では846万戸、つまり7戸に1戸の住宅が空き家になっている。国土交通省では1年以上住んでいない、または使われていない家を「空き家」と定義している。

図1

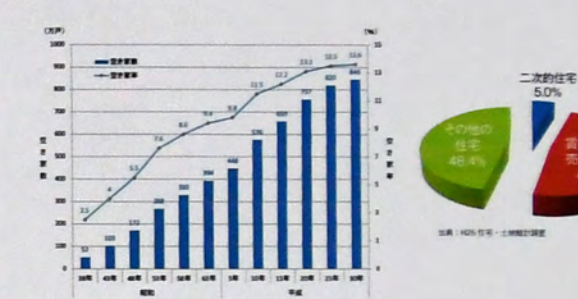


図2

第二節. 空き家のデメリット

- (1) 空き家による倒壊
日本の家は主に木で作られており、定期的な喚起や適切な管理を行わないと弱くなり、構造材としての役割を果たすことができなくなっていく。
(2) 景観の悪化
空き家の倒壊の危険性と合わせて、その空き家・空き地が周辺環境に大きな悪影響を及ぼす問題が出ている。
(3) 放火による火災
日本全国の総出火件数は2,757件で(令和元年:1月~12月)で、原因の3位は「放火」となっている。
(4) 資産価値の低下
空き家の資産価値が下がり、放置された空き家があることで周辺の家の資産価値も下がる。

第三節. 具体例

第一節にもあったように、今日の空き家の現状は深刻な状態にある。その一方で全国には様々な方法で空き家を有効活用している地域がある。ここではその具体例を紹介する。【長野県長野市】民間主導によるまちなかの空き店舗への開業及び定住の推進

- 市内でカフェやギャラリー、雑貨販売等を展開しているナノグラフィカが、善光寺門前町で空き家をリノベーションし、事業を展開したことをきっかけに、新たに移住、活動する人を地元住民が受け入れるための土壌を構築。
利用希望者が長く入居してもらえよう、使い方に適したマッチングをすることで、オーナーにとって低リスクで安心して建物を賃貸できるようにしている。
複数の団体、個人により、善光寺前地域等で空き家、空き店舗がリノベーションされた物件は60件以上(うち店舗は30件以上)

このように、空き家を活用してまちの活性化に成功している事例がある。

第三章 空き家を活用した異文化交流

第一節. 外国人が日本で暮らす際の問題点

現在、日本に住む外国人の数は年々増加してきている。そこで、より異文化交流を進展させるために、外国人が日本に住む上で改善していかなければならない問題を調べたところ、日本語での生活、居住の安定確保、生活費の負担、医療、社会保障等の問題が挙げられた。

第二節. 空き家を活用する理由

秋田県内にも外国人が経営している飲食店が多くある。本場の味が手軽に楽しめるということもあり、地元の人々からの需要も増えてきている。そして、第一節で述べたように、「居住の安定確保」が問題に挙げられている中で、日本では空き家の増加が問題になっている。コスト面でも大きな負担がかかるため、その両方を解決するために空き家を活用し、日本でお店を開きたいと考えている外国人を対象に、お店としてだけでなく住居として住むことも想定した、異文化交流を深められる建築を提案したいと考えた。

第三節. 空き家を活用した異文化交流を深められる建築の提案

第一節で述べたように、グローバル化によって海外に目を向ける人が増えたが、交流する機会が少ないという問題点と、第二章で述べた空き家の増加という二つの問題点を解決するために、空き家をリノベーションし、貸店舗として日本でお店を開きたい外国人に貸すという考えを提案する。外観はシンプル、内装はお店を開く際に必要な最低限の設備(具体的には冷蔵設備、洗浄設備、給湯設備、客用トイレなどを設ける等)例えば、二階建て住宅の空き家をリノベーションする場合、店舗併用住宅として、一階部分を店舗、二階部分を住宅とする。上記の設備を取りつけて、希望者に貸し出す。また、内装や外装をシンプルデザインにすることで、店舗の入れ替わりの際でも、大規模な工事をせずとも、オーナーが自由にアレンジした空間を造り上げることができ、コストの削減や短期間での入れ替わりを可能にすることができる。新しい建築物やファミリーレストランのような広大な空間ではなく、一軒家を用いることで、古いからこそのあたたかみ、狭いからこそ店舗と客席の距離が近くなり、コミュニケーションを生むことができると考えた。

ると考えた。

このように、多種多様な店舗にも柔軟に対応できるようにする。これによって多種多様なお店が開かれる。さらにただお店を開くだけでなく、お互いの文化を交流し合えるイベントを開催することによって、外国人の友人が欲しいがこれまでその機会が無かった人たちや、内向き志向な日本人も気軽に立ち寄ることができると考えた。さらにお店にとっても安定した集客が見込まれるというメリットがある。また、空き家を活用するため、新しく店舗を建設するよりもコストを削減することが可能になるだけでなく、まちの景観もよくなり、周辺の住宅の資産価値の上昇も見込める。

おわりに

私たちは今回空き家を活用した、異文化交流を通して人と人をむすぶ建築、まちづくりを提案した。その背景には、秋田県で深刻化している少子高齢化問題やそれによる空き家問題、進展し続けているグローバル化に適応していかなくてはならないことなどがある。秋田県は否が応でも東京のような「都会」とは言えないだろう。だからこそ、私たちは秋田県のような一般に「地方」と言われる場所でも、海外や異文化との交流を図ることのできる機会をつくり、異文化交流を通して地域コミュニティの活性化を実現するまちづくりをしたい。このようにして、交流人口や、日本人だけでなく外国人の移住や定住の拡大を図りつつ、収益が生まれる管理するまちの構築を目指す。しかし、現在、世界では、新型コロナウイルスの流行により、行動が制限される状況が続いている。その中で、このような提案を実行することは難しいが、この状況が収まった時には、これまでよりもさらに国際交流が深められ、互いの文化とコミュニケーションで人と人がむすばれる社会になってほしいと願っている。

出典・参考HP

- 「空き家問題」が止まらない。人生100年時代に必要対策は?
https://www.axa.co.jp/100-year-life/wealth/20190725/
日本財団 18歳意識調査
https://www.nippon-foundation.or.jp/what/projects/eighteen\_survey
稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiki/seisaku\_package/naiyouhtml
NPO法人 空き家・空地管理センター 放置空き家がもたらす被害
https://www.akiya-akichi.or.jp/what/damage/
総務省 令和元年(1~12月)における火災の状況(確定値)
https://www.soumu.go.jp/menu\_news/s-news/01shoubu01\_02000357.html

# キになるトイレ

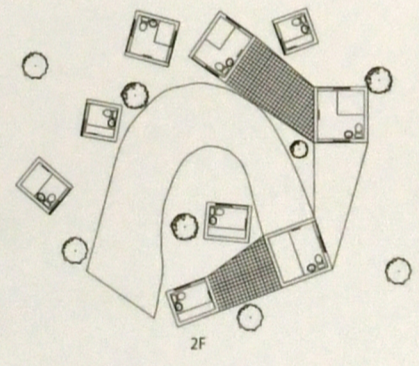
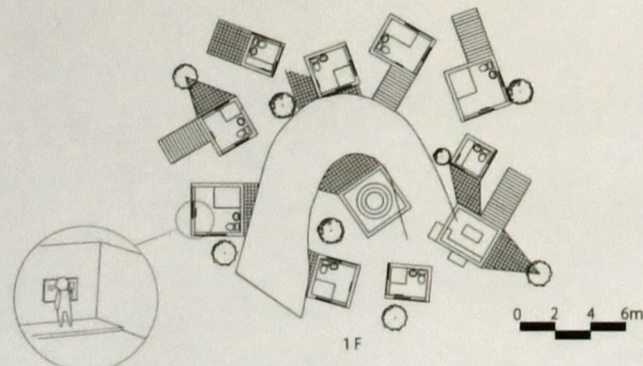
ここが“木”となり、この存在が“気”になり、また交流の“起”点ともなる。  
また、LGBTをふくむ自分の知らないことを知るきっかけともなる。  
このトイレがすべての可能性を生み出す起点となるのだ。



## 1 LGBT

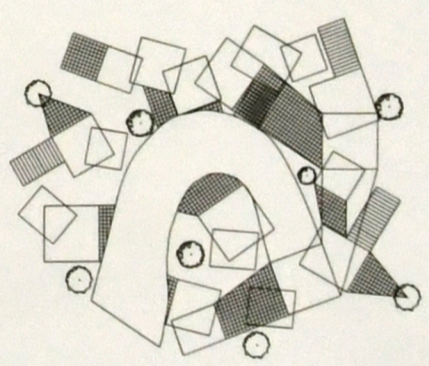
LGBTのひとたちは、男女で区別されているトイレに違和感を覚え、自分たちが少数者であると突きつけられているように感じる。  
そこで、このトイレは性別で区別せず、すべての人が使えるようにした。また、トイレ内にホワイトボードを置き、そこに自分の悩みや思いを書き共有する。それに返信が来ることにより、ホワイトボードを通じて人と人との関係が生まれる起点となる。

トイレに関する問題として、出入りするところを見られたくないというものがある。それを解決するために、一部のトイレに二か所の出入口を設け、使うたびに出入口が逆になり、他人に出入りが見られにくい構成にした。



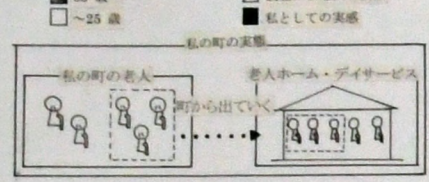
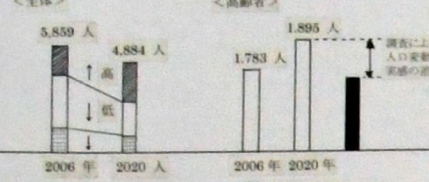
## 2 ATHLETIC+COFEE

さまざまな人に利用してもらうため、トイレ全体にアスレチック要素を入れることで、親子にも利用してもらうことが見込める。  
また、トイレにカフェを併設することでLGBTや親子以外の人からも“気”なるトイレとして利用してもらえるだろう。

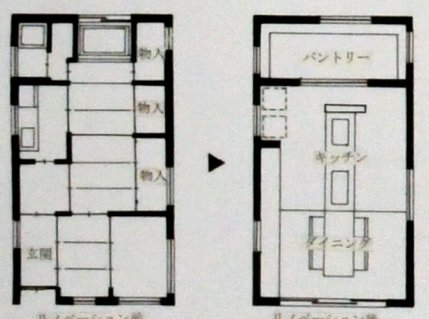
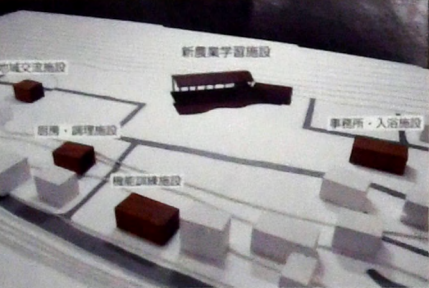


本当に田舎の過疎化は、若者の田舎離れだけが原因なのでしょうか？

私の住んでいる三重県伊賀市大山田町は、若者や上野城など観光として有名...



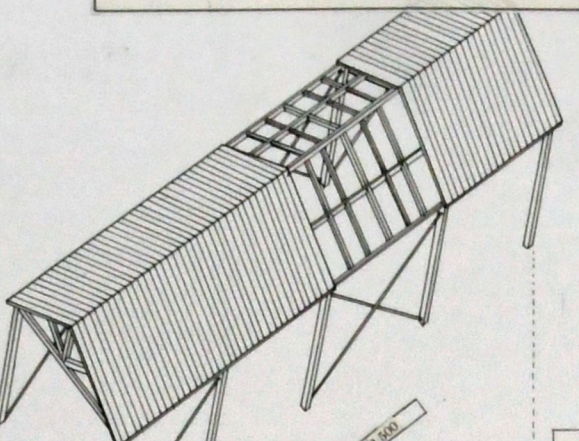
人口変動と私の町の実態
まず、私は過疎化の現状を把握するために大山田町の協力を得て人口変動を調査しました...



空き家を利用したサービスリノベーション例
私は地域にある空き家を利用してサービスを設け、少しでも老人が長く町で過ごせるようなまちづくりを提案します...

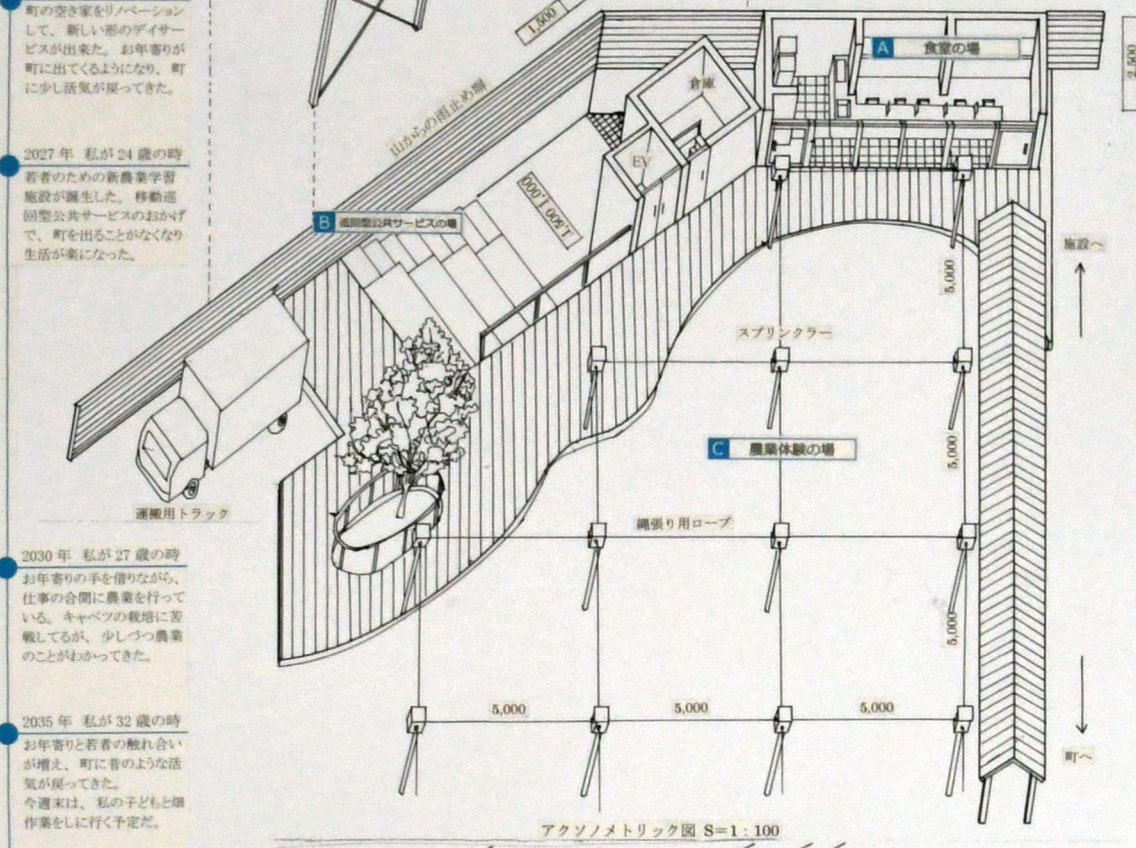
私の町の現状と未来の展望

- 2012年 私が9歳の時
2020年 私が17歳の時
2025年 私が22歳の時
2027年 私が24歳の時
2030年 私が27歳の時
2035年 私が32歳の時
2063年 私が60歳の時



新農業学習施設の主要機能

- A 食堂の場
B 巡回型公共サービスの場
C 農業体験の場



次に、やはり若者が都会に流れる問題について、私なりに2つの理由を考えました...

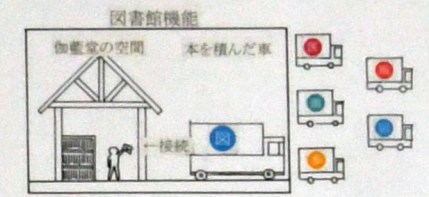
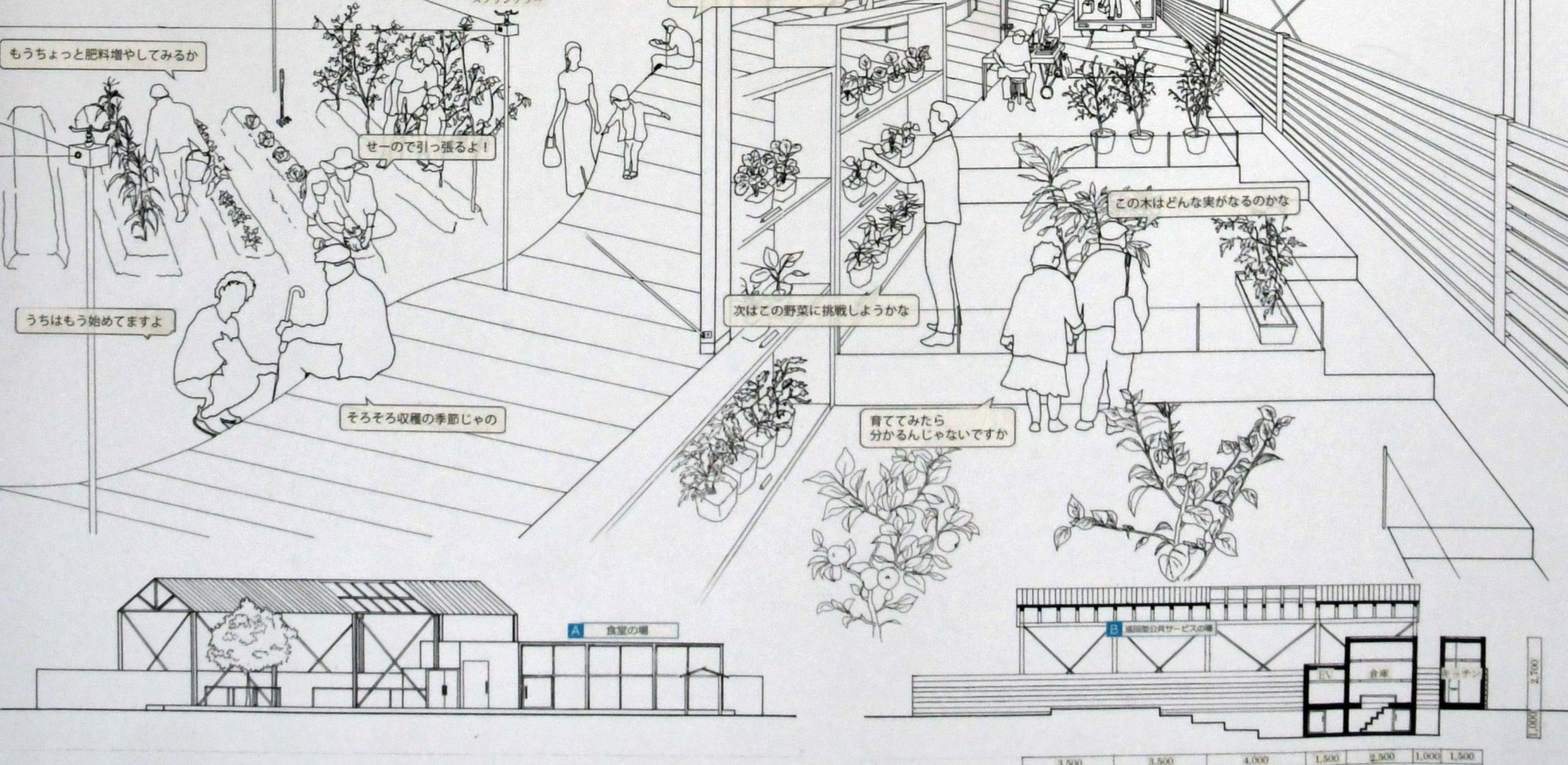


Table with 7 columns (Month, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, Sunday) and 4 rows of activity schedules.

移動巡回型公共サービスの提案
2つ目に、田舎に住むということは農業と共に生きるという意味合いを持つということです...

C 農業体験の場

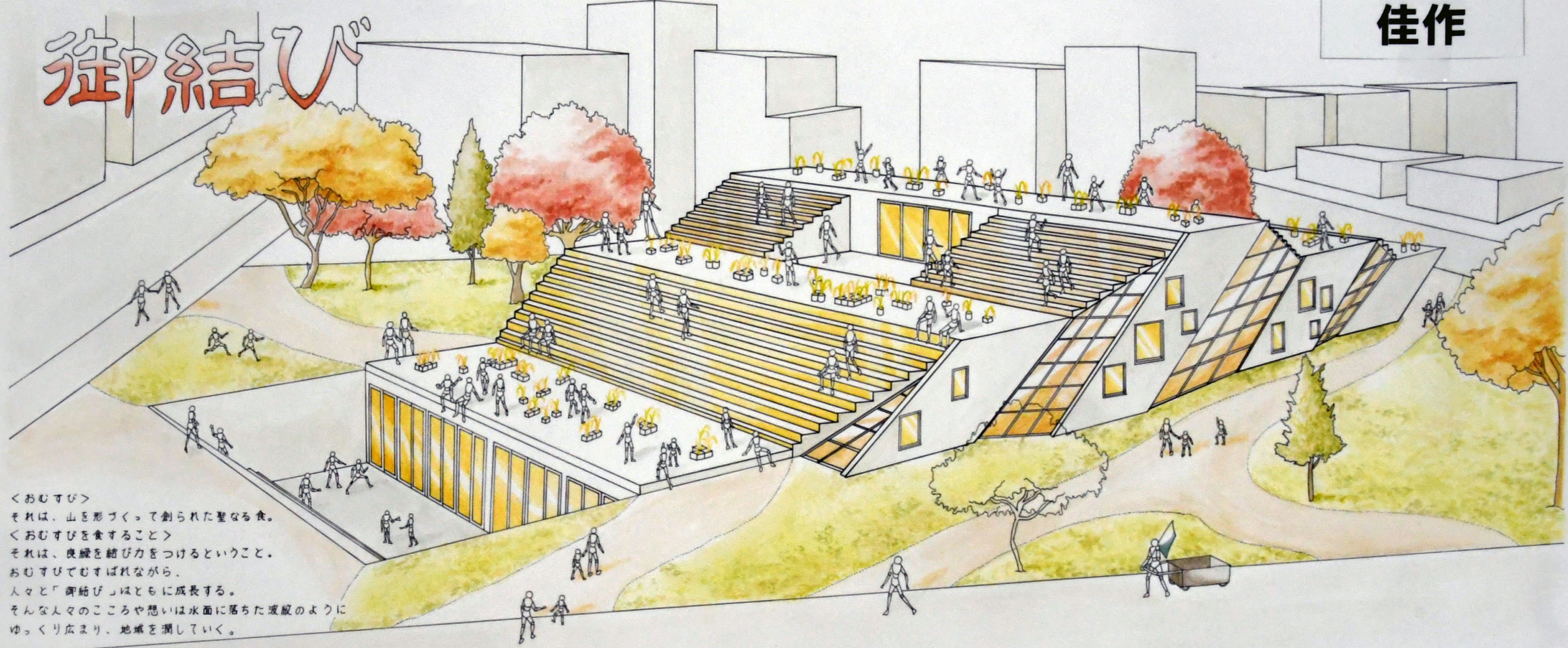
B 巡回型公共サービスの場



南側立面図 S=1:100

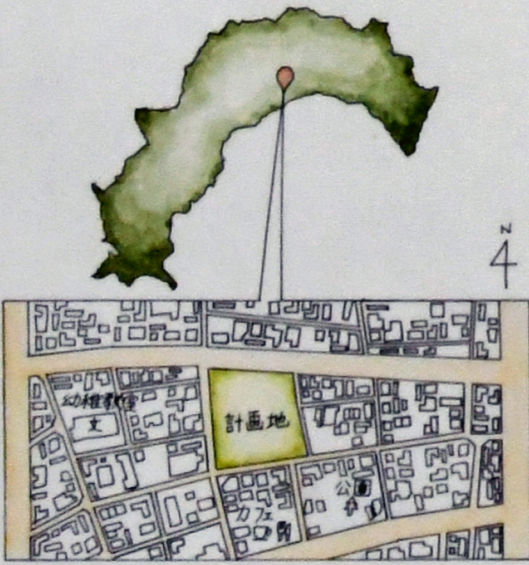
断面図 S=1:100

# 御結び



<おむすび>  
それは、山を形づくって創られた聖なる食。  
<おむすびを食すること>  
それは、良縁を結び力をつけるということ。  
おむすびでむすばれながら、  
人々と「御結び」はともに成長する。  
そんな人々のこころや想いは水面に落ちた波紋のように  
ゆっくり広まり、地域を潤していく。

## 1 敷地・高知県



・特徴  
高知県では9割以上が中山間地域である。  
高知市では山地が開発され土地を利用した棚田が減り自然と関わる機会が希薄である。

## 2 問題：希薄な自然との関わり

・高知県  
○自然体験活動の効果

自然体験	意欲・関心		
	ある	42.8	ない
多	40.0	42.8	19.3
少	29.2	42.9	27.9
多	18.3	41.0	40.7
少	38.3	33.9	27.8
多	30.7	33.0	36.3
少	18.1	31.4	50.4

遊び	規範意識		
	ある	33.0	ない
多	38.3	33.9	27.8
少	30.7	33.0	36.3
多	18.1	31.4	50.4
少	44.7	29.7	25.5
多	35.8	34.0	30.2
少	24.2	34.0	41.7

出典：独立行政法人国立青少年教育振興機構

・子供の頃に自然体験、地域活動が豊富な人ほど高い  
意欲・関心  
・深く学びたい。  
・未知のこともチャレンジしたい。

規範意識  
・社会のルールを守る。 →高い  
・親切心。

職業意識  
・将来の夢がある。  
・社会や人のためになる仕事をしたい。

### 活動参加状況

全国学力・学習状況調査		平成27年度	平成26年度	平成25年度
		25年度	26年度	27年度
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。	高知	■	■	■
	全国	■	■	■
	小学校	■	■	■
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	高知	■	■	■
	全国	■	■	■
	小学校	■	■	■
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	高知	■	■	■
	全国	■	■	■
	小学校	■	■	■
地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことはありますか。	高知	■	■	■
	全国	■	■	■
	小学校	■	■	■

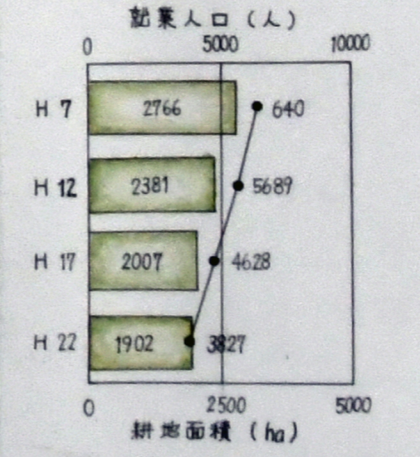
■...当てはまる。 ■...どちらかといえば当てはまる。

出典：文部科学省

・特徴  
山が豊富な土地だが、  
全国で自然体験、地域活動の経験を比較すると、ほぼ変わらない。

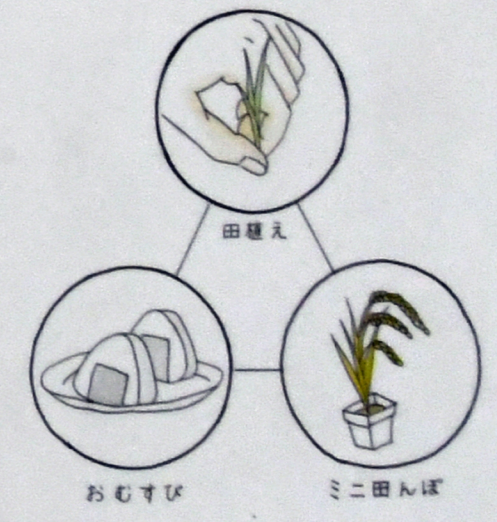
## 3 御結び→むすぶ建築へ

### ・高知市 ・農業就業人口と経営耕地面積



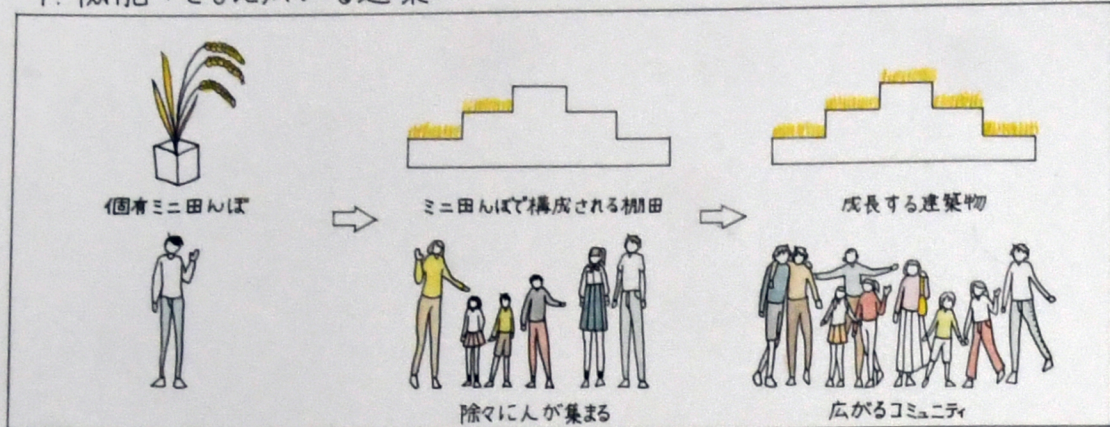
出典：農林業センサス

・特徴  
年々、耕地面積、就業人口は減少している。

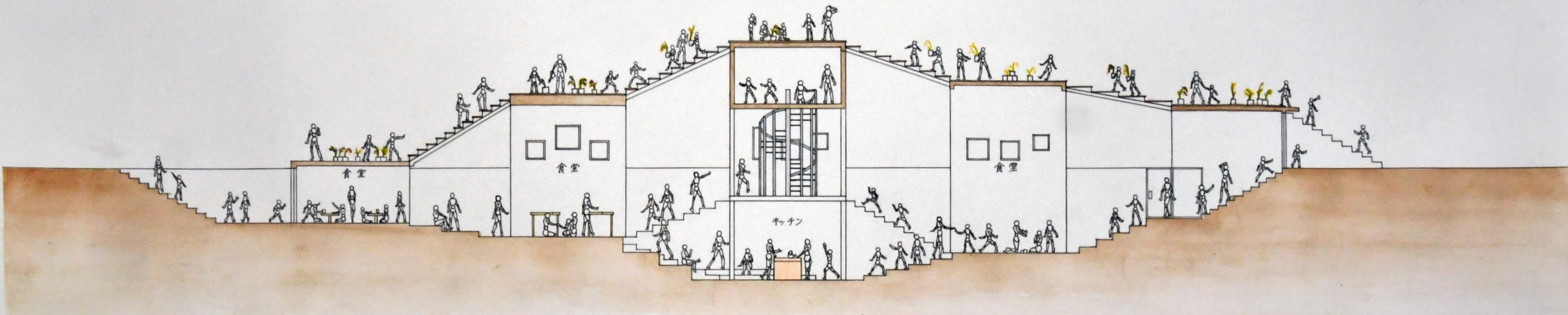
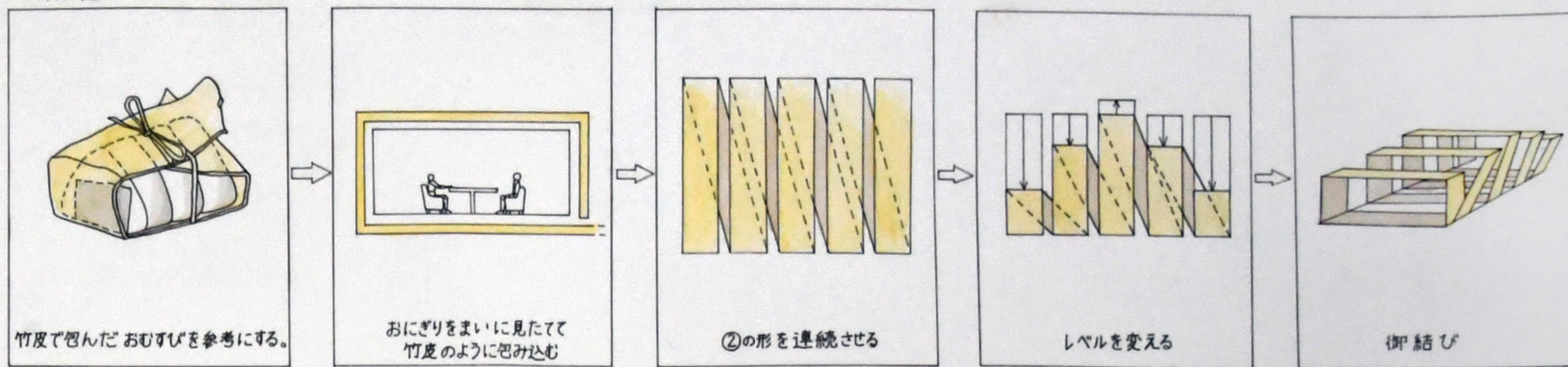


・むすび方  
田植え、ミニ田んぼ、おむすび。  
3つの軸で結ばれたトライアングルを御結びとみたり、人と人、こころ、自然を結ぶ。

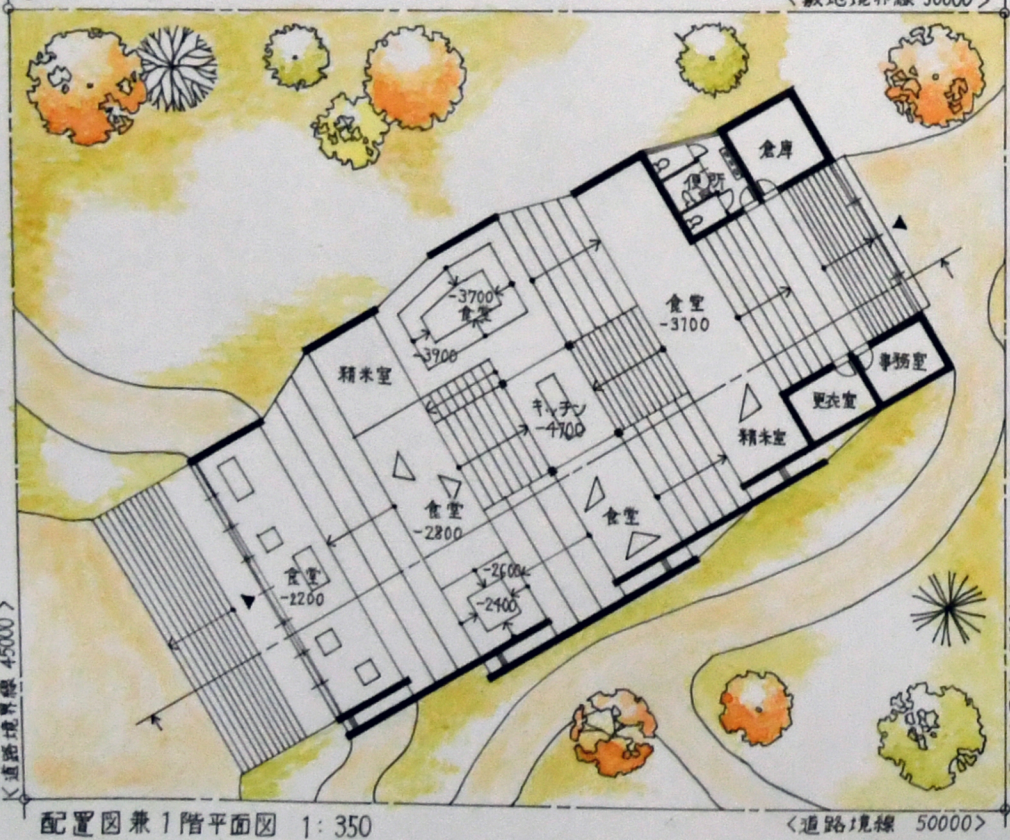
4. 機能：ともに広がる建築



5. 形態ダイアグラム

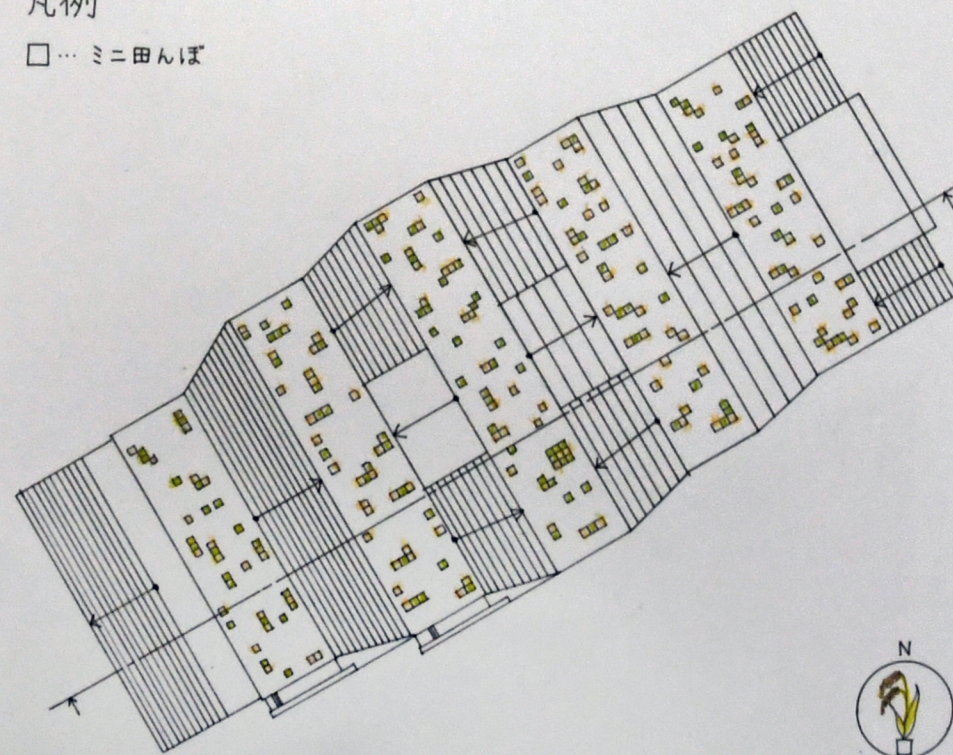


6. プラン

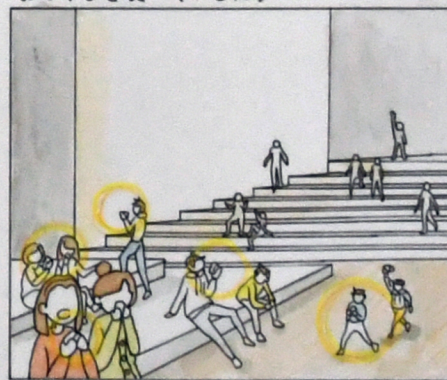


凡例

□...ミニ田んぼ



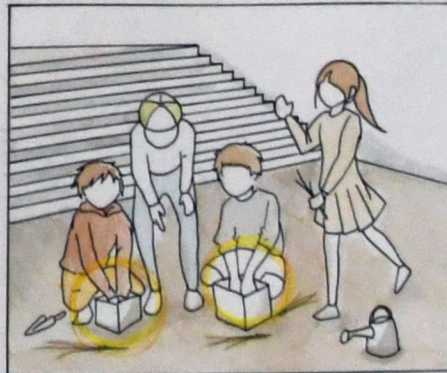
おむすびを食べている様子



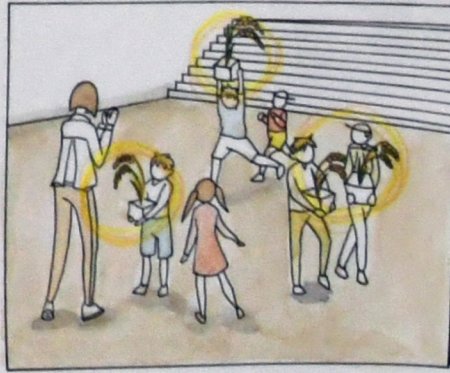
精米している様子



田植している様子



収穫している様子

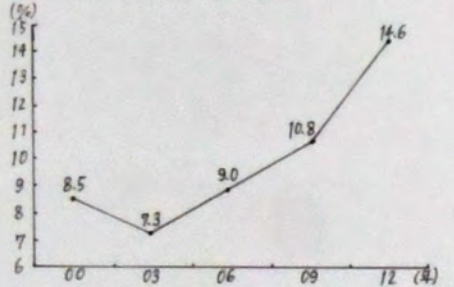


# むすびの連鎖

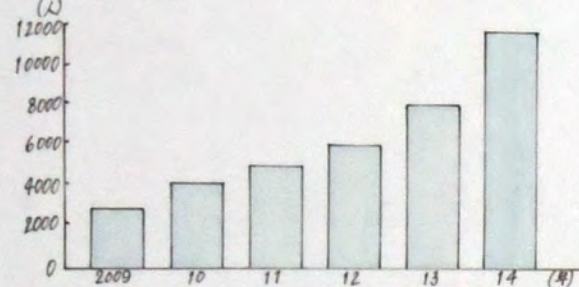
浜松市の中心街近隣の商店街。かつては賑やかな商店街も、今は人通りも無くシャッター通りとなっている。商店街は、戦後の復興、人口増加とともに生まれた。商店街によって地域社会に絆を生みつつ、生活を支える組織体を生み出した。つまり、人々の生活を支えるために商店街は生まれたのだ。しかし、そのむすびが自ら壊れてしまった。むすびは連鎖していかず、地域産業の衰退、自然環境との距離、人の繋がりの希薄化が進んでいる。もう一度、地域社会の生活のむすびを支え、連鎖していく、新しい商店街に生まれ変わらせたい。商店街を新たなむすび建築として提案する。

## 01 社会背景 - 商店街の現状と地方移住 -

○商店街の空き店舗率の推移



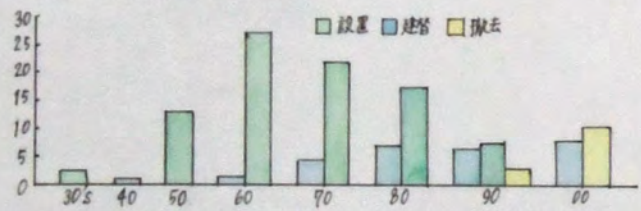
○移住者数の推移



出典：(株)アストジェイ「平成24年版商店街実態調査報告書」  
上のグラフから、商店街の空き店舗率が年々上昇していることが分かる。商店主の高齢化・後継者不足が原因として挙げられる。

出典：毎日新聞と明治大学教授の共同調査  
上のグラフから、5年間で4倍以上移住者数が増えていることが分かる。特に、静岡県は地方移住先ランキング第2位と、人気な県である。また、新型コロナウイルスの影響もあり、地方移住希望者が増えている。

○アーケードの建設と撤去



アーケードの設置は1960年代をピークに減少し、撤去が1990年以降増加傾向にあるとされる。原因としては、「アーケード自体の老朽化」で維持管理に苦める会員への負担」などが挙げられる。

出典：日本都市計画学会 都市計画論文集

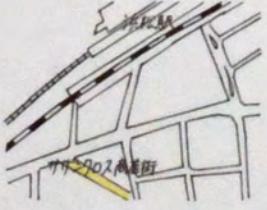
## 02 敷地 - 砂山銀座サザンクロス商店街 -

○浜松市について



○サザンクロス商店街について

浜松駅から南に徒歩3分のところにありアーケード商店街砂山銀座サザンクロス。1968年に建てられたが、最盛期に30店舗ほどあった店も今では11店舗になり、空き店舗が目立つシャッター街になってしまっている。



○サザンクロス商店街の課題

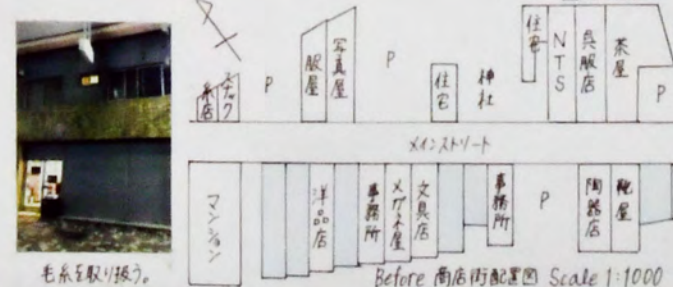


静岡県浜松市に設置する。浜松市は都市部と中山間地方を併せ持ち、日本を縮小したような、国土縮小型都市である。過ごしやすい気候などを理由に、都市からの地方移住にも人気が高い。

○サザンクロス商店街のアーケードの現状  
アーケードがあることにより、空を見れなかったり、木を植えられることができず、自然を感じる事ができない。また、アーケードの上や店同士の路地などの残余空間ができてしまっている。



長服や婦人服を取り扱う。 陶器の販売をする。 20種類以上の茶を扱う。



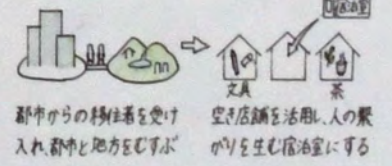
Before 商店街配置図 Scale 1:1000

## 03 提案 - むすび商店街 -

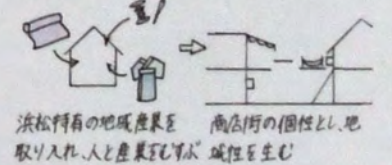
○むすびの連鎖



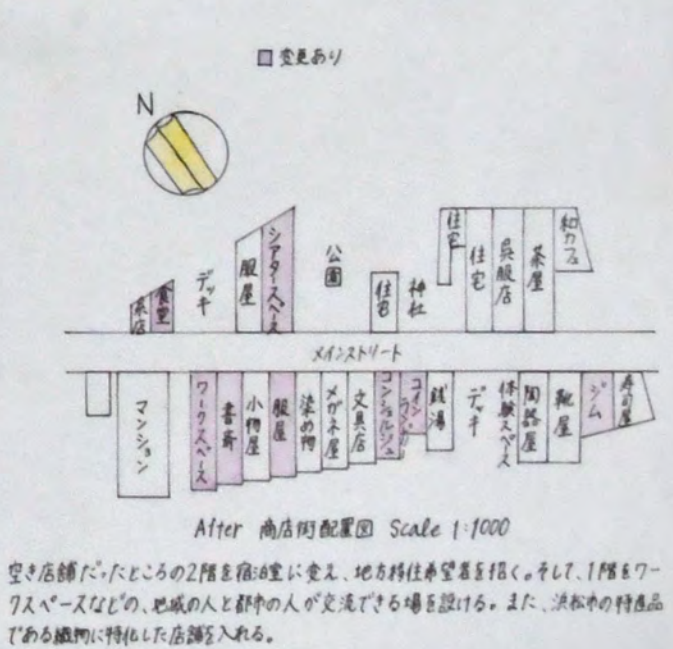
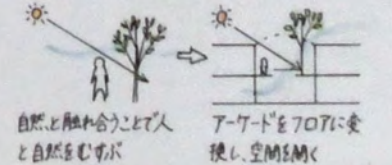
○商店街と人のむすび



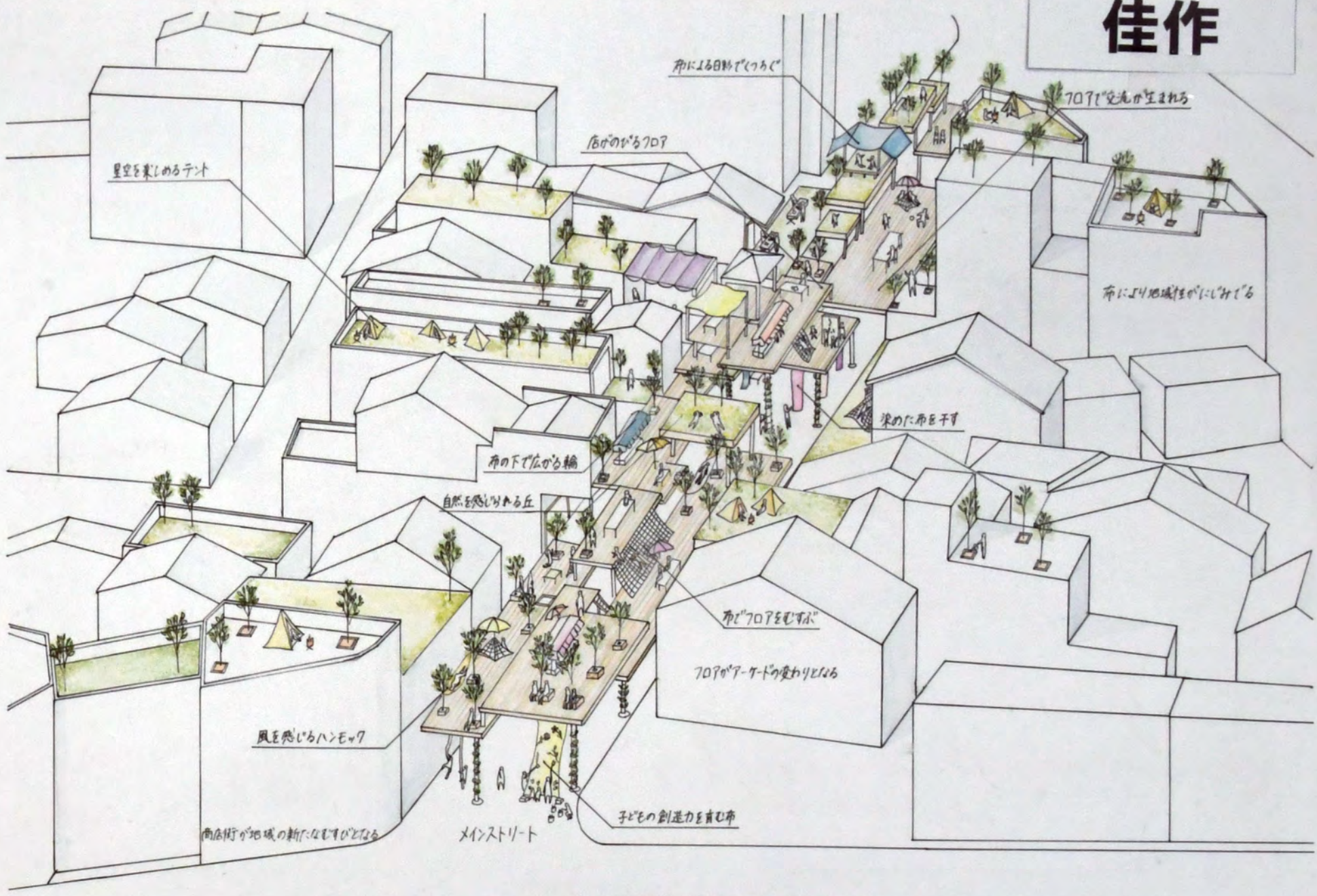
○商店街と地域性のむすび



○商店街と自然のむすび

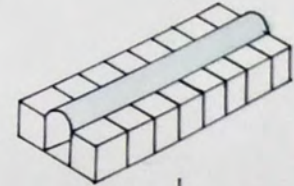


After 商店街配置図 Scale 1:1000  
空き店舗だったところの2階を宿泊室に変え、地方移住希望者を招く。そして、1階を707スペースなどの、地域の人と都市の人が交流できる場を設ける。また、浜松の特産品である織物に特化した店舗を入れる。

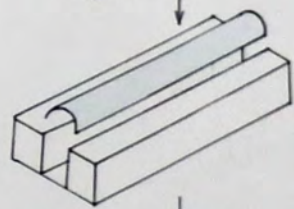




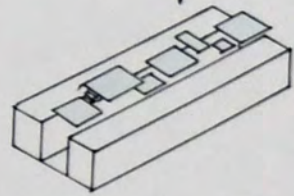
04 アーケードの変換



アーケードにより  
商店街が老朽化

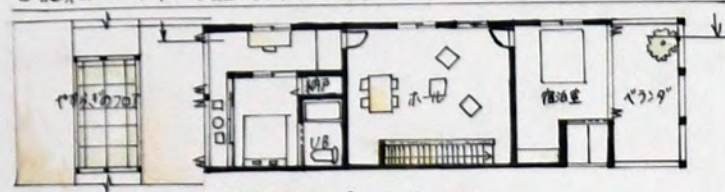


アーケードを撤去

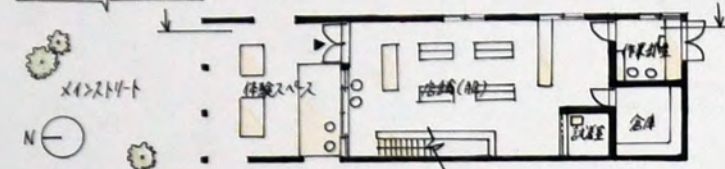


建物と建物を版  
でむすび、繋が  
りを生む

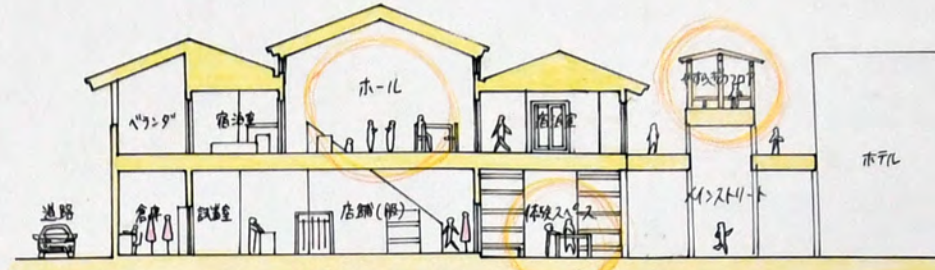
提案パターン1-商店街と人のむすび-



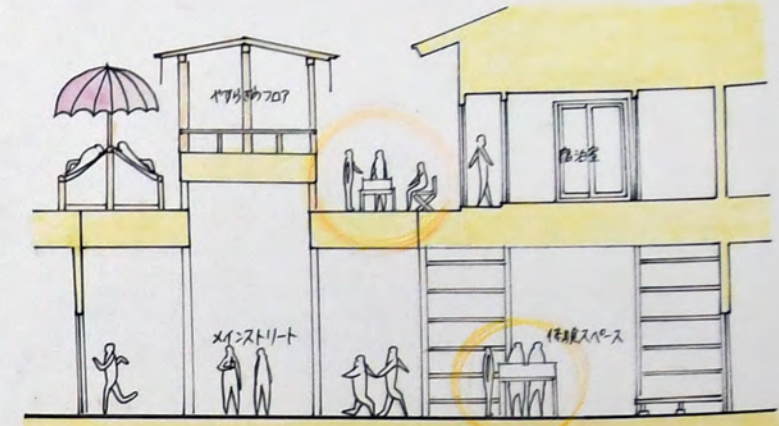
2階平面図 Scale 1:200



1階平面図 Scale 1:200

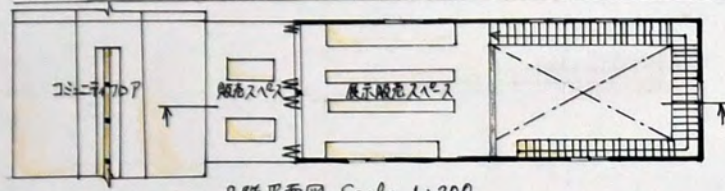


断面図 Scale 1:200

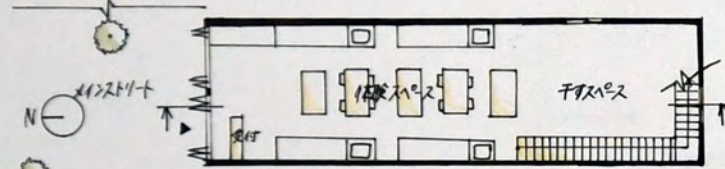


断面詳細図 Scale 1:100

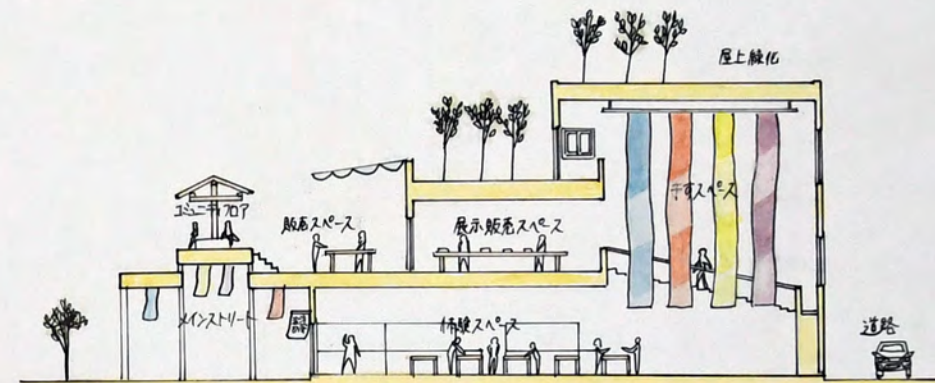
提案パターン2-商店街と地域性のむすび-



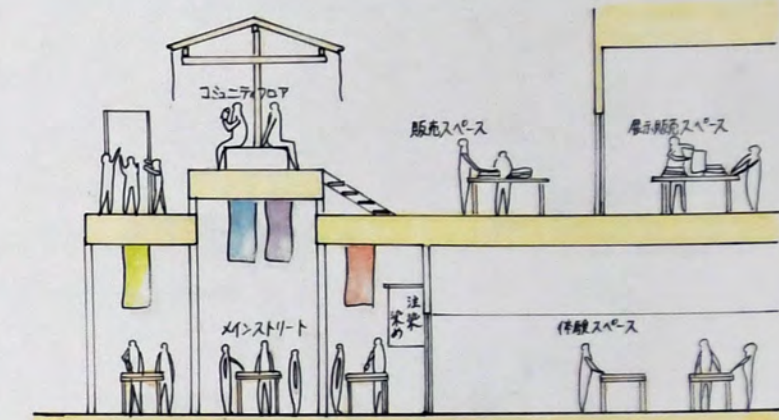
2階平面図 Scale 1:200



1階平面図 Scale 1:200



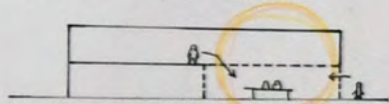
断面図 Scale 1:200



断面詳細図 Scale 1:100

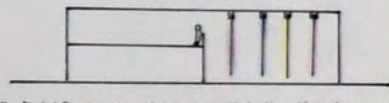
05 むすびの詳細

提案パターン1-商店街と人のむすび



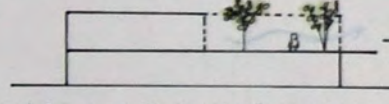
1階をロビーにし、都市と地方の人が共同で利用できる空間とすることで、商店街と人をむすぶ

提案パターン2-商店街と地域性のむすび



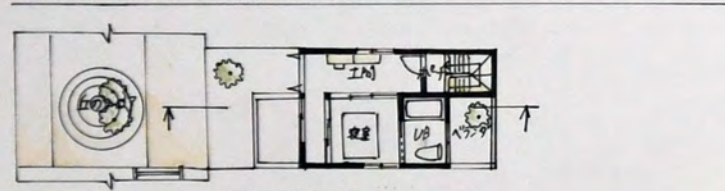
店内を吹き抜けにし、浜松の地域産品を営む空間とすることで、商店街と地域性をむすぶ

提案パターン3-商店街と自然のむすび

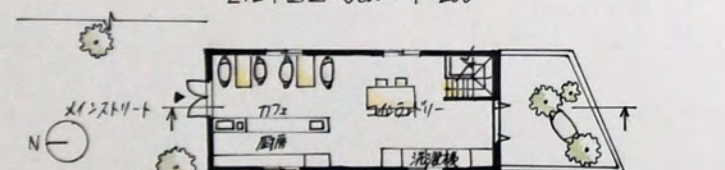


2階を減らし、フロアと繋がる自然を感じられる空間とすることで商店街と自然をむすぶ

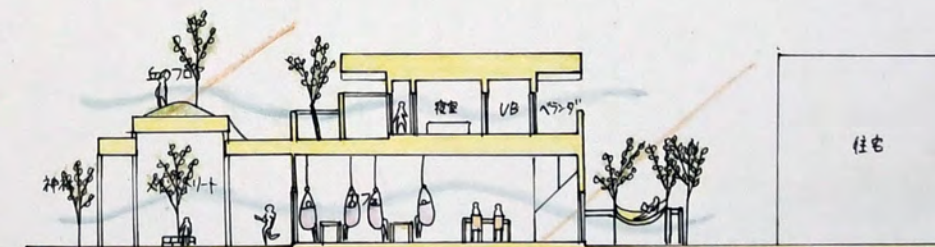
提案パターン3-商店街と自然のむすび-



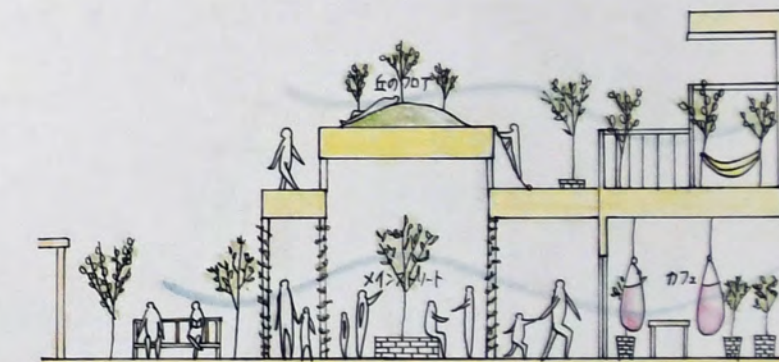
2階平面図 Scale 1:200



1階平面図 Scale 1:200

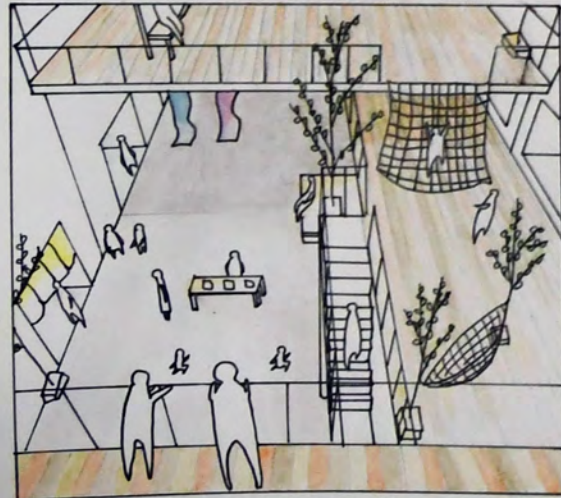


断面図 Scale 1:200

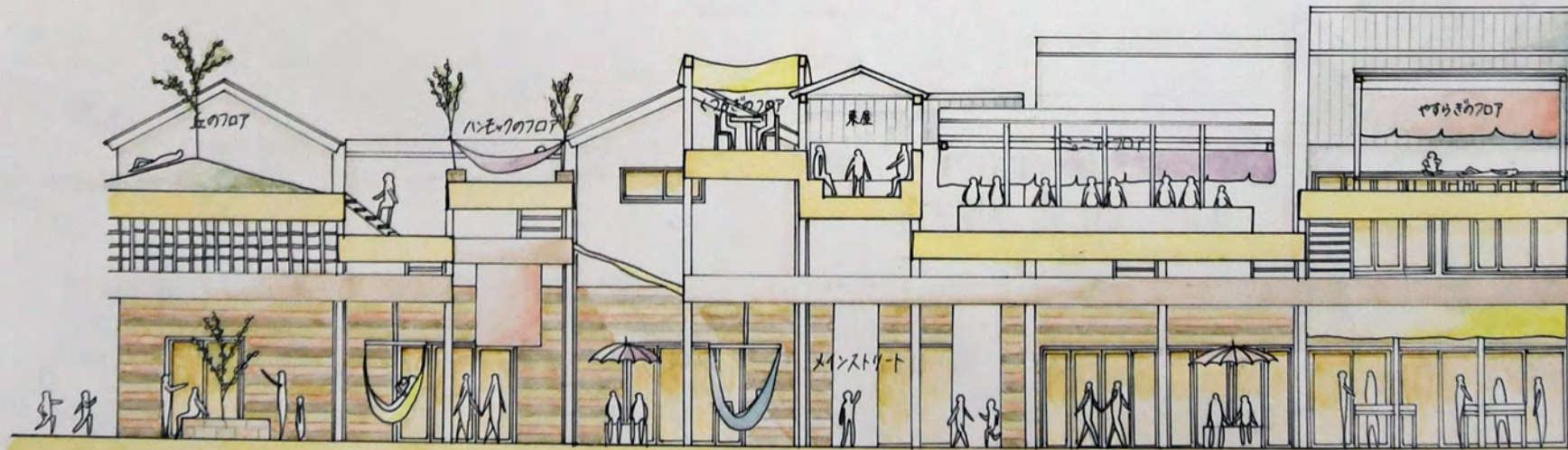


断面詳細図 Scale 1:100

上から見た上下の繋がり

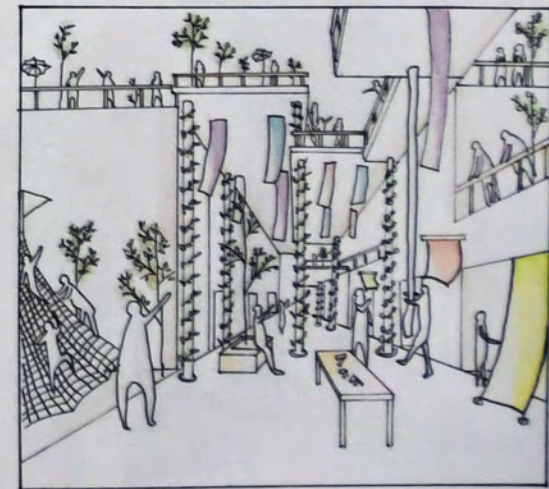


707の上から全体を見わたることができる。



立面図 Scale 1:100

下から見た上下の繋がり



自然を感じながら、人との交流が生まれる。